

■ (20)質問の手が上がりました！

「授業も連載もつかみと組み立て！」と前回(19)の小欄で書いたら、さっそく NIE 経験豊かな先生から問い合わせが来た。趣旨は「連載やコラムは書き出しや文章構成が大事と言うが、記事は大事な要素から書いていく『逆三角形』ではなかったのか」という質問だった。やや説明不足だったかもしれない。

新聞記事は大別すれば「速報型」と「熟考型」がある。「ストレートニュース型」と「長文の連載・コラム型」、あるいは「素早く簡潔に伝える型」と「深掘りして背景を書いたり、筆者の考えを書く型」と言ってもいい。学校の運動会に例えれば、その場で勝負の「かけっこ型」と本番前にたっぷり練習して披露する「演技型」だろう。

「逆三角形」を使うのは主に「速報型」の方だ。まず結論から書き、次いで重要な順番に説明を書き加えていく。新聞編集にも便利な手法で、ページからあふれたら、重要度の低い後ろの段落から削っていけば OK だ。一方、起承転結を考えた「熟考型」は、短く刈り込む場合、文章構成を一から練り直さないといけない。

では、紙面の中で両型の見分けかたは？「熟考型」はたいてい、記事が四角形になるように組んであり、全体が罫線で囲まれていたり、署名がついたりしていることが多い。手元の新聞で確認してみてください。(山)